

「一坪地主」がメロンの収穫を満喫 メロン一坪地主・収穫体験ツアー大好評

つがるブランド推進の新たな取り組みとして、今年の夏、つがるにしきた農協による「メロン一坪地主」「メロン収穫体験ツアー」が行われ、好評を博しました。

メロン一坪地主には予想を上回る申し込みがあり定員を拡大。7月下旬につがるブランド認定のタカミメロンが全国各地の一坪地主の皆さんに発送されました。

また、8月3日から2泊3日で開催された収穫体験ツアーには抽選で選ばれた地主23人が東京駅から東北新幹線はやぶさを利用してつがる市を訪問。木造吹原地区の大澤稔さんの園地でメロンの収穫を楽しみ、甘さたっぷりのタカミメロンを堪能しました。千葉県から来た秋元秀行さんは「メロン一つ一つに台座があり丁寧に育てられていることに感動した」と、石橋良子さんは「一面に広がるメロン畑はすばらしい眺め。メロンを食べるたびにこの景色を思い出すと思う」と話していました。

翌日からは埋没林や日本最古のりんごの木など市内の名所を巡り、つがる市の自然や歴史を満喫しました。



好天の下、メロンの収穫を楽しむ参加者



甘くてジューシーなメロンを絶賛

ネブタ運行で被災地を元気に 市商工会青年部らが岩手県山田町でネブタ出陣

8月10日、市商工会青年部（奈良信幸部長）らが岩手県山田町で地元住民とともにネブタを運行し、東日本大震災で被災した人々を元気づけました。

ネブタ運行は「被災地にネブタを持って行き子どもたちを元気づけたい」と語り合ったことから始まり、趣旨に賛同した横町町内会が人形ネブタ「辰橋」を貸し出すことを了承。青年部では震災以来、山田町立大浦小学校に支援物資を届けていたことから同町が出陣先に決まり、7月から活動のための募金活動も続けてきました。

当日は市商工会、市建設業協会の有志約80人が現地入り。つがる市のメロンやスイカ、リンゴジュースを振る舞った後、地元の子どもたちとともにネブタを曳き、町中心部を練り歩きました。津波被害が甚大だった街中は今も街灯はわずかで夜間は閑散としていますが、この日は光輝く勇壮なネブタが進むと沿道から大きな歓声が上がリ、町は活気にあふれました。奈良部長は「私たちも奮い立ち、逆に元気をもらった。現地で多くの人から感謝の言葉をいただき、本当に行って良かった」と話していました。



上) 多くの人々に喜ばれたメロン、スイカの振る舞い

左) 山田町民とつがる市民の絆を深めたネブタ運行

木造中が団体初優勝、つがる相撲クラブは団体3年連続優勝 第7回旭富士杯県下小・中学校相撲大会

県内の小中学生ら124名が参加した第7回旭富士杯争奪県下小学校・中学校相撲大会が8月6日、つがる地球村スポーツパーク相撲場で開催されました。

選手たちは団体、個人戦で日頃鍛えた力と技をぶつけ合い、手に汗握る熱戦を繰り広げました。また、会場には夏合宿でつがる市滞在中の伊勢ヶ濱部屋の日馬富士関、安美錦関、宝富士関も観戦に訪れ、選手たちを激励していました。主な結果は次のとおりです。

- 小学校団体 優勝：つがる相撲クラブA
- 中学校団体 優勝：木造中学校
- 小学校個人
 - 1年 2位：長谷川恵司（つがる相撲クラブ）
 - 3年 3位：相馬 良亮（つがる相撲クラブ）
 - 4年 3位：小関 拓道（つがる相撲クラブ）
 - 5年 優勝：菊地 新（つがる相撲クラブ）
 - 6年 2位：田中 界渡（つがる相撲クラブ）
- 中学校個人
 - 軽量級 3位：石森 大誠（木造中）、斉藤 悠世（木造中）
 - 重量級 3位：越後谷知樹（木造中）



開会式で選手を激励する
大関・日馬富士関



声援を背に迫力ある取り組みが繰り広げられた



優勝を飾った木造中学校、つがる相撲クラブの選手たち

稲垣少年クラブが全国大会へ、稲垣中バレー部が東北大会へ

全日本バレーボール小学生大会に出場する稲垣少年クラブと、東北中学校バレーボール選手権大会への出場を決めた稲垣中学校バレーボール部の男女のメンバーが8月1日、市役所を訪れ、福島市長に決意を語りました。

稲垣少年クラブは7月9日、マエダアリーナで行われた青森県大会で優勝を果たし、稲垣中学校バレーボール部は7月24日、25日、八戸市で行われた県大会で男子が優勝、女子が準優勝の成績を収め、それぞれ出場権を得ました。

稲垣少年クラブ主将の川倉柊羽君は「どんなチームが相手になっても1勝でも1点でも多く取って思い出を作りたい」と、稲垣中学校バレー部の笠井亮治君は「東北大会で勝って全国大会へ行きたい」、工藤千春さんは「悔いの残らないように一生懸命練習して全国大会に向けてがんばりたい」と力強く抱負を述べました。福島市長は「歴史ある稲垣のバレー。監督やコーチの指導を良く聞いて頑張ってください」とエールを送りました。



稲垣少年クラブの選手たち



稲垣中学校男女バレーボール部の選手たち

思い出いっぱいの校舎を懐かしむ

向陽小学校（高橋範隆校長）で8月14日、15日行われた「思い出の校舎にさよなら」一般開放に卒業生ら約200人が訪れ、懐かしい学舎に思いをはせていました。現在建設中の新校舎が完成後、解体される現校舎。解体前に思い出に触れ合う機会を提供しようと同小学校が企画しました。

訪れた家族連れや卒業生らは、教室のイスに腰掛けたり、体育館や廊下の卒業制作を眺めては思い出話に花を咲かせながら、ゆっくり校舎を巡っていました。東京から帰省中の20才代男性は「心がほっとした。全てが小さく感じ、同時に自分自身の成長を感じた」と話していました。



歴代校長の写真額を眺める卒業生ら

メロン・スイカを盗難から守ろう

メロン、スイカの本格的な収穫時期に合わせ、盗難を未然に防ぎ、生産者が安心して収穫できるよう防犯協会、警察署、防犯指導隊、自主防犯パトロール隊、市が連携して「メロンロードパトロール隊」を結成し、盗難防止に努めています。

8月2日、市役所玄関前で行われた出発式では隊員約40人が出席し、代表の山谷誠一郎さんが「農家の皆さんが精魂込めて育てたメロン、スイカを守るためパトロールを強化します」と決意表明をしました。その後、隊員らは車に分乗し、メロンやスイカ畑周辺を見回りました。



生産者が丹精込めて作ったメロン畑をパトロール

りんごわい化栽培の技術学ぶ

りんごわい化栽培技術を実践している園地を視察して生産者の技術の研鑽と生産意欲の高揚を図ることを目的とした「りんごわい化優良園地視察会」が7月25日、柏地区で開催され、県内外のりんご生産者約340人が参加しました。

視察会は県りんご協会などが主催。参加者は柏地区の小関清隆さん、古坂勇樹さん、柴谷誓孝さん、荒谷隆志さん、成田健司さんの園地を順に視察。各園主が品種や収量などを説明すると、参加者は剪定や施肥などの管理方法について熱心に質問し、技術習得に努めていました。



参加者の質問に答える小関清隆さん（左）

地元産食材を使った親子料理教室

地産地消と食の大切さを学んでもらおうと8月5日、市食育推進応援隊（原田ひとみ代表）が親子料理教室を松の館で開催し、市内12組27人の親子連れが参加しました。

この日のメニューはつがるブランド農産物のゴボウを使った「手打ちうどん」。市食生活改善推進委員会の指導のもと、皮をむいたゴボウをミキサーにかけ、小麦粉と混ぜ合わせ、麺を打ちました。子どもたちは包丁を使って麺を切り分け、ゆで上がった麺にキュウリやトマトなどをトッピングして完成。皆で試食し地元食材の新たなおいしさを堪能していました。



ゴボウを練り込んだ麺を切り分ける



フラット夏まつり、多彩なイベント満喫

7月31日、むらおこし拠点館活性化推進協議会（工藤嘉津彦会長）が11回目となるフラット夏まつりを開催し、多数の市民らで盛り上がりしました。

会場では、蒼天飛龍やJ Aつがるにしきた女性部富蒔支部によるよさこいソーランなどが披露されたほか、ビンゴゲームや生バンド演奏、盆踊りなどさまざまなイベントが行われ、訪れた家族連れらがまつりを楽しみました。

また、今年はチャリティーイベントとして「じゃがいも詰め放題」が行われ、参加料全てが東日本大震災義援金として日本赤十字社青森県支部に寄付されました。



地元産のじゃがいもを袋に詰める参加者



多くの市民で賑わう商店街

賑わい復活、商店街夜店まつり

木造・三新田神社の宵宮に合わせて7月23日、商店街の夜店まつりが6年ぶりに復活し開催されました。

メインステージでは手作り演歌の競演やスコップ三味線の演奏が行われ、また商店街各所でバンド演奏が披露されるなど歩行者天国となった商店街は多くの市民で賑わいました。主催した千代町商店会の川嶋大史会長は「予想以上にお客さんが来てくれた。夜店まつり復活を待ち望んでいた人が多かったので楽しんでもらえたのでは」と話していました。また、三新田神社前の広場でもカラオケ大会などが催され、集まった市民が自慢の喉を披露していました。

軽スポーツでいきいきふれあい

稲垣体育館で7月31日、ふれあいフェスティバルが行われ、約160人の市民が軽スポーツやゲームを楽しみました。

このイベントは、軽スポーツを通じた交流と健康づくりを目的に市体育協会が主催。会場には二チレクボール、輪投げ、吹き矢など10種類の軽スポーツやゲームコーナーが設置され、参加者は心地よい汗を流していました。中でも夏ならではの「スイカの種飛ばし大会」には多数の参加者が記録を競い合い、稲垣町の福井清幸さんが8.85mの記録で優勝しました。昼には流しそうめんも振る舞われ、参加者は楽しい時間を過ごしていました。



スイカの種飛ばし大会で記録を競う子どもたち



雨の中、踊りを披露する参加者

7年ぶりに復活、かしわ盆踊り

8月17日、イオンモールつがる柏駐車場で「復活かしわ盆踊り」が開催されました。これは、東日本大震災の被災地へ元気を届けようという趣旨から、旧柏村で毎年開催されていた盆踊りを7年ぶりに復活させました。

この日はあいにくの雨模様でしたが、柏地区を中心に市内外から参加した17団体が趣向を凝らした衣装に身を包み、「かしわ音頭」に合わせて元気に踊りを披露し、観衆から大きな拍手を受けていました。

盆踊りに寄せられた寄付金の一部は、日本赤十字社青森県支部に義援金として寄付されました。